

口腔顎顔面外科学実習（安部貴大）

Training of Oral and Maxillofacial Surgery (Takahiro Abe)

キーワード

- ①口腔外科手術
- ②全身管理
- ③救急蘇生
- ④医療安全
- ⑤口腔外科専門医

関連する学位授与方針

- ①
- ②
- ③
- ④
- ⑤

関連する教育実施方針

- ①
- ②
- ③
- ④
- ⑤
- ⑥

授業概要

口腔顎顔面領域の疾患全般を理解し、診断に必要な画像の読影や病理組織学的所見の基本を修得するための実習を行う。頭頸部の構造は実に複雑であり、解剖学の知識は手術手技の観点からも非常に重要である。よって解剖学教室の支援をいただき臨床解剖の実習を予定する。また実臨床において手術基本手技や周術期管理などを実践する。その上で、課題とする研究を遂行していくうえでの計画立案や、生化学的、分子生物学的手法の実験、データ解析を通じて、専門的技能や知識の高度化を目的として開講する。

授業科目の学修目標

口腔顎顔面外科学は、先天・発育異常、感染症、嚢胞性疾患、腫瘍および腫瘍類似疾患、口腔粘膜疾患、唾液腺疾患、顎関節疾患、神経疾患などの疾患を対象とし、これらの研究の進展と知識の普及を図り、国民の健康増進に資することを目的とする学問である。実習を通じて必要な知識・態度・技能を包括的に修得することを目標とする。

授業計画

- ①画像診断、病理診断学実習 12コマ
 - ・放射線科、病理診断科への見学を通して、各検査の手順を理解するとともに所見の取り方を学ぶ。
- ②臨床解剖学実習 12コマ
 - ・解剖学教室の協力をいただき、検体を用いた頭頸部解剖、手術手技を想定した実習を行う。
- ③実臨床での診断、治療計画立案実習 12コマ
 - ・各種画像評価の考察、治療方針の選択議論を通して、Shared-decision makingのプロセスを学ぶ。
- ④培養細胞およびモデル動物を用いた基礎系実習 24コマ
 - ・培養細胞や動物実験手技を教授する。

実習担当教員：安部貴大 沢井奈津子 田中香衣 小松紀子 高才東

教科書および参考書

各領域の最新の文献・ガイドライン、口腔外科ハンドマニュアル クインテッセンス出版、

履修に必要な予備知識や技能、および一般的な注意

日々の知識習得は怠らず、細目については担当教員に確認をとりながら実習に臨むこと

大学院生が達成すべき行動目標

- ①基本となる諸検査から所見を読み取り、診断と治療方針の立案ができる
- ②治療選択に対する問題提起ができ、多職種連携とチーム医療の理解と態度が実践できる
- ③口腔顎顔面外科手術の基本手技を修得し実践することができる
- ④歯科医学研究の理論を理解しリサーチマインドな態度をもって基礎実験を実践することができる

評価

試験	小テスト	レポート	成果発表	ポートフォリオ	口頭試問	実技	その他
0%	0%	20%	0%	20%	20%	40%	0%

評価の要点

- ・レポートは、授業計画で行った講義について課題を提出する。10% x 2回 = 20%
- ・ポートフォリオは、担当する症例の治療計画、研究立案を提出する。10% x 2回 = 20%
- ・口頭試問は、授業終了後やカンファレンスで知識理解度を判定する。1% x 20回 = 20%
- ・実技は、授業計画の4項目について理解度と達成度を総合的に評価し判定する。10% x 4回 = 40%

理想的な達成レベルの目安

知識、技能、態度の総合的評価において80%以上の達成を求める。